

日本医史学会会報

52号 (復刊)

平成28年10月30日

第118回日本医史学会総会開催に当たって	会-1
第118回日本医史学会総会・学術大会開催に臨んで	会-4
第117回日本医史学会学術大会 会員大会	会-5
平成27年度関連医史学団体報告	会-11
雑報 (寄贈本リスト)	会-18

第118回日本医史学会総会開催に当たって

総会会長 武田 時昌

この度、伝統ある第118回日本医史学会総会・学術大会の総会会長を担当させて頂くことになり、とても光栄に存じます。このような大役に新参者の私を推挙していただいた小曾戸洋理事長をはじめ関係者の先生方に感謝申し上げます。

ところで、京都での日本医史学会の開催は、平成に入ってから1991年と2000年の2回あり、久々というわけではありません。しかし、1991年の大会会長であった杉立義一先生、特別講演をされた高島文一先生をはじめ、京都での医学史研究を主導してこられた先生方が近年に相継いで鬼籍に入られ、世代交代の時期を迎えています。幸いなことに、2000年の時に大会会長をされた中橋彌光先生、奥澤康正先生はまだご健在で、私もいろいろとご指導いただいています。そこで、学会開催を契機に世代を超えた研究者交流を促進し、医学史の伝統を受け継いでいく環境作りや人材育成

に橋渡しの役割を求められたのだと思います。

振り返りますと、私が医学史研究に取り組むようになったきっかけは、大学院の博士後期課程に進学した1983年4月から人文科学研究所の山田慶兒先生が主宰する科学史研究会に参加するようになったことにあります。その当時は、毎週火曜日に『黄帝内経太素』の会読を行っていました。班員には、近隣の東アジア科学史研究者が一堂に会してまして、杉立先生、高島先生も参加されていました。数学、天文暦術や象数易を中心に研究していた私は、医薬の世界には素人同然なのにあれこれ文句をつける生意気な学生だったのですが、両先生にはとても可愛がってもらいました。巻13から巻30までを完読するまで参加し、その間何度も訳注担当者になって難解きわまりない医説の解説に四苦八苦しなから取り組んだことは、その後の研究生活に大きな糧となっております。

杉立先生、高島先生は、山田先生達を誘って、研究会終了後に『医心方』の読書会を行っておられました。今熊野観音寺境内に医聖堂や医心方一千年記念碑が建立されましたのが、1984年の秋でしたので、京都の医史学研究の最盛期に立ち会えたことはとても得難いことでした。

京都は、古来より医道を志す者が全国から集まり、最新の知識とワザを学んで持ち帰る拠点でした。そういう見地から、京都を学問研究の聖地として10年に1度くらい学会を開催することは意義のあることにちがひありません。私が重責を担うにはキャリアも覚悟も不足していて、身の縮む思いをしておりますが、共同研究会を通して杉立、高島両先生をはじめとする諸先生、諸先輩から受けた学恩に少しでも報いることができればと考えております。

ところで、学会イベントとして、これまで特別講演、公開講演を企画し、大会会長自らが壇上へ上がってきたようなのですが、入会したばかりの私がつまらない話をしては仕方がありませんので、今回は少し違った趣向を工夫しようと実行委員会で話し合っています。土曜日の午後には、外国人を含めた特別講師を招聘し、汎アジア的な視野からの討論会を催す予定であります。シンポジウムのテーマはまだ検討中なのですが、本学会の名称になっています「医史学」というコンセプトはとても重要であるというのが実行委員の共通認識です。

呉秀三、富士川游、藤浪剛一、小川鼎三等の歴代理事長を務められた諸先生は、医学を進歩させ、将来の行路を明らかにするうえで、科学的方法を用いて医学の歴史を研究することの意義を力説し、医学教育において医史学の必要性を大いに唱えました。その主張には、すぐれた学問観や文化認識が発揮されています。

近代日本における学問の現代化は、欧米型の実証主義に偏重したために、伝統社会の学術文化との間に大きな断層ができ、様々な弊害をもたらしました。とりわけ、医薬学の世界では、蘭学、洋学の先駆的な業績も多々ありましたが、それをも含めて前近代社会の遺物としてパッサリと切り捨

ててしまいました。そのために、技術的伝統に関する喪失感を生み出しました。明治末から大正にかけて、その反動から科学史研究が立ち上がり、近代科学の系譜を辿ることで断層を埋めようとする試みがなされるようになります。医史学の場合は、医学者、医師が提唱した内的、自発的な活動であったところに大きな意義がありました。

最も特筆すべきは、医療文化が多様な方向性があることを認識して、文化史、精神史、民俗学といった新しい歴史学的手法を取り入れたことです。哲学、心理学、宗教学から民間信仰に至る多角的な観点から実証的に考察する学問、「医学、医療の史学」=医史学を標榜しました。医学博士の著作集を紐解きますと、視野が広く複眼的な遡及的考察が多彩に繰り広げられていて、大いに啓発され、学問の醍醐味を味わうことができます。

ところが、現代医療において、草創期の先覚者の金言は忘れ去られ、医史学はなおざりにされているように思われ、とても残念で仕方がありません。先端医療技術の進歩は目覚ましいものがありますが、医療文化の枠組みは伝統社会に比べて狭隘になり、社会的、思想的な作用力は逆に小さくなってしまったところがあります。健康、長寿の達成は医薬だけではなく、様々な文化要素が絡んでいます。長寿社会、健康社会の医療を本格化するには、医史学の導入によって多様な見地からのアプローチが必要だと思えます。

そこで、京都での総会では、医史学の原点に立ち返り、医学的な伝統を再び蘇らせるための新たな第一歩としましょうと提案しました。すると、実行委員長の葉山美知子さんが素敵なフレーズを提案し、総合テーマには「歴史を未来へ 医学的伝統の創生をめざして」と決まりました。医史学のミッションには、医薬の史的考察の先に、探り当てた昔人の技能や知恵を現代にフードバックさせようとする復古と革新の2つの方向性があります。そのような視座から討論集会を企画し、皆様の忌憚のないご意見、ご提案を賜りたいと思っております。

公開講演については、京都の人々は学問的関心が高いので、会期中の開催に拘らずに大いにやり

たいというスタッフの熱意を踏まえ、京都アスニーとの共催イベントとして実施することにしました。京都アスニー(京都市生涯学習総合センター)は、京都市民の生涯学習を目的として設置された公益財団法人として、ゴールドン・エイジ・アカデミーという無料教養講座を開設しています。京大人文研とは毎年1回共催で講演会を行っているのですが、来年度はその場を借りて公開講座の拡大版を行うことにしました。学会開催月である6月の毎週金曜日(2, 9, 16, 23, 30日)に、総合テーマは「医道の歩み、ワザの伝統」、古代・中世・近世前期・中世後期・近代の計5回の講演(時間は90分, 10:00~11:30)を実行委員会メンバー(猪飼・長野・葉山・多田・武田)が講師となって行きます(参加自由, 聴講無料)。

京都大学には、数多くの古医書があり、近年にも藤浪鑑博士や岡西為人博士のご遺族から新たに寄贈された典籍や研究資料があります。そこで、時計台1F歴史展示室に特設コーナーを設けて、特別展示を行うことにしました。出品の目玉には、富士川文庫のなかから選りすぐりの古医書を考えています。というのは、附属図書館では本年度から富士川文庫を中心とする医薬書のデジタル化を進めています。

富士川文庫の医薬書は約5000種類あり、現在のところ約500点ほど電子図書館にてデジタル画像をWeb公開していますが、今回の事業で頑張って50パーセントくらいまで引き上げたいと目論んでいます。また、痛みの激しい『福田方』など

は修復することになっています。

私は、今春からその事業の委員になり、デジタル化のリストを選定することになりました。富士川文庫の貴重書を閲読した研究者はごまんといますが、その全体像を把握したという話は聞いたことがありません。そこで、森ノ宮医療大学教授の長野仁氏に協力を仰ぎ、毎週金曜日に貴重書庫に籠もって総合的な調査を行うことにしました。その作業を通じて見出したお宝を披露したいと考えています。また、月曜日に予定しているオプションツアーでは、もっと詳しく見てみたい、読んでみたいという方のために、古医書探訪ツアーを準備しております。

IT技術の急速な発展は、従来型の文献資料学を大きく変容させました。仮想空間に浮遊する情報を収集し、汎用データベースや横断検索ツールを駆使しながらいったい何をどのように探り出すのか、インターネット時代に適応した新しい研究の視座と方法論が求められています。もちろん、原書を実際に手にすることは、文献考証の識眼力を養ううえで不可欠な要素であります。学問のグローバル化に向けて動き出している過渡期において、討議すべき問題は数多くあります。富士川文庫の原書やカラーデジタル画像をじっくり眺めながら、有意義な話し合いを繰り広げたいものです。

以上のように、盛りだくさんのメニューを準備して皆様のお越しをお待ちしておりますので、よろしくご参集ください。なお、京都は外国人旅行者が急増し、ホテル不足に悩まされておりますので、宿泊の予約はお早めになさってください。

第118回日本医史学会総会・学術大会開催に臨んで

実行委員長 葉山美知子

京都医学史研究会 副会長

日本医史学会総会・学術大会が京都で開催されるのは第101回平成12年(2000年)以来、17年ぶりです。時は移り幾星霜、医史学会の有りようも年々変貌していることを実感しています。

さて、前回の117回大会は広島が開催地でした。なにより近代医史学及び医学史を確立された富士川游先生、呉秀三先生のお膝元であり、吉益東洞、土生玄碩などを輩出した土地柄ですから参加の学会員も大いに盛り上がり、特別講演やシンポジウムでは広島大会ならではの貴重なひとときを味わいました。

今回、第118回総会(2017年)を開催するにあ

たり、総合テーマは「歴史を未来へ」です。医学史、医史学を過去から現在、そして未来へ送り込みたいと企画しました。昨今、医学の進展ぶりは日々刻々「今日は昨日のものがたり」となるほどめざましいものがあります。特に留意したことは、過去を古代・中世・近世にとらわれず、近代・現代さえ昨日は過去であるという緊迫した時間的距離感で迫ることです。

来る2017年6月10日、11日に日本医史学会総会を迎えます。どうぞたくさんの方々が、この京都の地、吉田に集って下さるようお願いいたします。

第117回日本医史学会総会 会員大会

去る平成28年5月20日（金）に社員総会，21日（土）には会員大会が広島県医師会館で開催されました。下記の報告が承認され，協議事項については，全ての議案は可決されました。

I. 報告事項（平成28年3月31日現在）

1. 平成27年度庶務報告

(1) 会員の動静

- ・ 入会者 42名
- ・ 退会者 55名

死亡会員 7名

いしはら つとむ
石原 力（平成27年4月29日逝去）

かとう しろう
加藤四郎（平成27年9月18日逝去）

たかしま ぶんいち
高島文一（平成27年9月23日逝去）

まさはし こうじ
正橋剛二（平成27年10月3日逝去）

えんどう しょうじ
遠藤正治（平成28年2月24日逝去）

すぎうら もりくに
杉浦守邦（平成27年12月4日逝去）

てらさわ こういち
寺沢浩一（平成27年9月4日逝去）

都合退会 48名

- ・ 現在会員数 799名

正会員	743名	（内 団体会員23名，海外会員47名）
学生会員	29名	名誉会員 6名
功労会員	18名	賛助会員 3名

(2) 受賞

平成27年4月25日 第27回矢数医史学賞

平成27年4月25日 第21回富士川游学術奨励賞

平成27年7月6日 社会医学振興財団第2回荒記賞

平成27年 山上の光賞

しんむら たく
新村 拓

ふか せやすあき
深瀬泰旦

ほりぐち しゅんいち
堀口俊一

かわしま
川嶋みどり

2. 平成27年度事業報告

事業名		内容	
日本医史学雑誌		第61巻第2・3・4号, 第62巻第1号 発行	
第116回日本医史学会総会 会長 小曾戸洋 <small>こそとひろし</small>		日本綿業倶楽部 (大阪府大阪市)	平成27年4月25日(土) ~26日(日)
華岡合水堂碑 建碑・除幕式		中之島公園	平成27年4月25日(土)
日本医史学会月例会		順天堂大学	1, 3, 5, 10, 11月 第4土曜日
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		鶴見大学	平成27年9月12日(土)
日本医史学会12月例会	共催	日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・ 日本看護歴史学会・洋学史学会との合同	
		順天堂大学	平成27年12月12日(土)
神農祭	協賛	湯島聖堂	平成27年11月23日(月)
杉山検校生誕400年記念事業	協賛	(継続)	
医心方と京都の医学史展2015	特別協力	護王会館護王神社	平成27年11月1日(日) ~3日(火・祝)
東洞祭	後援	広島大学広仁会館	平成27年9月13日(日)
「解体新書」展	後援	東洋文庫ミュージアム	平成28年1月9日(土) ~4月10日(日)
ヒューマンケア心の絆プロジェクト	後援		

3. 第28回矢数医史学賞選考委員会報告

真柳 誠まやなぎ まこと 『黄帝医籍研究』(汲古書院)

4. 第22回富士川游学術奨励賞選考委員会報告

三崎裕子みさきゆうこ 「「近代的明治女医」誕生の経緯と背景——『吾園叢書』所収の1881(明治14)年「中央衛生会臨時会議事録」と内務省衛生局史料より——」(日本医史学雑誌第61巻第2号掲載)

5. 関連医史学団体報告(資料A)

6. その他

II. 協議事項

第1号議案 平成27年度決算報告に関する件（資料1-2）

第2号議案 平成28年度事業計画案に関する件

事業名		内容	
日本医史学雑誌		第62巻第2・3・4号, 第63巻第1号 発行	
第117回日本医史学会総会 会長 山崎正寿 <small>やまざきまさひさ</small>	(準備)	広島県医師会館 (広島県広島市)	平成28年5月21日(土) ~22日(日)
第118回日本医史学会総会 会長 武田時昌 <small>たけだときまさ</small>	(準備)	京都大学芝蘭会館 (京都府京都市)	平成29年6月10日(土) ~11日(日)
日本医史学会月例会		順天堂大学	1, 3, 4, 6, 10, 11月 第4土曜日
日本医史学会9月例会	共催	日本医史学会神奈川地方会秋季例会との合同	
		鶴見大学	平成28年9月
日本医史学会12月例会	共催	日本薬史学会・日本獣医史学会・日本歯科医史学会・ 日本看護歴史学会・洋学史学会との合同	
		順天堂大学	平成28年12月17日(土)
神農祭	協賛	湯島聖堂	平成28年11月23日(水)
医心方と京都の医学史展2016	特別 協力	護王会館護王神社	平成28年11月1日(火) ~3日(木・祝)
第26回漢方治療研究会	後援	北里大学薬学部	平成28年10月2日(日)
「桑田衡平翁」生誕180周年記念展	後援	日高市総合福祉センター	平成28年6月23日(木)~ 27日(月)

第3号議案 平成28年度予算案に関する件（資料3）

資料1

貸借対照表
平成28年3月31日現在

科 目	金 額	備 考
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金	103,916	
預金	8,879,461	
流動資産 合計	8,983,377	
2. 固定資産		
(1) 基本財産		
基本財産 合計	0	
(2) 特定資産		
特定預金	8,710,740	
矢数医史学賞基金	5,022,977	
富士川游学術奨励賞基金	1,567,109	
特定資産 合計	15,300,826	
(3) その他固定資産		
華岡碑	3,640,896	
その他固定資産 合計	3,640,896	
固定資産 合計	18,941,722	
資産 合計	27,925,099	
II 負債の部		
1. 流動負債		
前受金	3,672,000	
預り金	26,953	
流動負債 合計	3,698,953	
2. 固定負債		
固定負債 合計	0	
負債 合計	3,698,953	
III 正味財産の部		
1. 一般正味財産		
正味財産 合計	24,226,146	

資料2

正味財産増減計算書

自平成27年4月1日

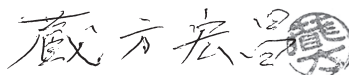
至平成28年3月31日

科目	金額	備考
I 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 会費収入	7,547,125	
② 助成金	0	
③ 寄付金	843,200	
経常収益計	8,390,325	
(2) 経常費用		
① 学会誌刊行費	4,155,770	
② 事業費	1,190,100	
③ 人件費	2,990,363	
④ 会議費等	77,010	
⑤ 旅費交通費	228,681	
⑥ 通信・運送費	150,986	
⑦ 事務費	33,083	
⑧ 支払手数料	150,000	
⑨ 医学会負担金	87,550	
⑩ 雑費	8,180	
経常費用計	9,071,723	
当期経常増減額 = (1) - (2)	-681,398	
2. 経常外増減の部		
(1) 経常外収益		
① 受取利息	4,342	
② 前期華岡碑計上分	2,521,800	
経常外収益計	2,526,142	
(2) 経常外費用		
経常外費用計	0	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	2,526,142	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	1,844,744	
一般正味財産 期首残高	22,381,402	
一般正味財産 期末残高	24,226,146	
II 正味財産期末残高	24,226,146	

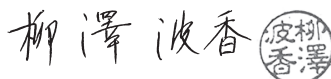
定款第31条に従い、平成27年度の資産及び会計について監査した結果、理事の職務執行に不備の点はなく、決算報告書は正確かつ妥当であることを認めます。

平成28年4月6日

監事



監事



資料3

平成28年度予算(案)

科目	決算	予算	備考
	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日		
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 会費収入	7,547,125	8,000,000	
② 助成金	0	0	
③ 寄付金	843,200	1,350,000	
経常収益計	8,390,325	9,350,000	
(2) 経常費用			
① 学会誌刊行費	4,155,770	4,200,000	
② 事業費	1,190,100	1,200,000	
③ 人件費	2,990,363	2,600,000	
④ 会議費等	77,010	60,000	
⑤ 旅費交通費	228,681	550,000	
⑥ 通信・運送費	150,986	80,000	
⑦ 事務費	33,083	30,000	
⑧ 支払手数料	150,000	150,000	
⑨ 医学会負担金	87,550	90,000	
⑩ 雑費	8,180	20,000	
経常費用計	9,071,723	8,980,000	
当期経常増減額 = (1) - (2)	-681,398	370,000	
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
① 受取利息	4,342	4,342	
② 前期華岡碑計上分	2,521,800	0	
経常外収益計	2,526,142	4,342	
(2) 経常外費用			
① 名簿製作費	0	350,000	
経常外費用計	0	350,000	
当期経常外増減額 = (1) - (2)	2,526,142	-345,658	
当期一般正味財産増減額 = 1 + 2	1,844,744	24,342	
一般正味財産 期首残高	22,381,402	24,226,146	
一般正味財産 期末残高	24,226,146	24,250,488	
II 正味財産期末残高	24,226,146	24,250,488	

(資料A)

平成27年度 関連医史学団体報告

北海道医史学研究会 事業報告

北海道医史学研究会の平成27年度の活動はございませんでした。

平成28年度から活動を再開する予定でございます。

新潟支部 報告

今年度は支部としての例会、研究発表は行われなかった。支部事務局の所在は従来どおり、日本歯科大学新潟生命歯学部医の博物館である。

平成27年度(2015年)中の支部会員の学会発表などは次の通りである。

1) 学会・研究会などでの発表

- ①第116回日本医史学会総会(4月25～26日 大阪府大阪市中央区・日本綿業倶楽部)
「断毒論」にみる「温疫論」の影響 西巻明彦
江戸時代中期の談義本『医者談義』(1759)にみる病家への教訓 平尾真智子
“Ludlow’s Manual of Medical Examination, 1867”と和訳本『医学七科問答』 樋口輝雄
- ②第45回日本医史学会神奈川地方会秋季例会(9月12日 神奈川県横浜市鶴見区・鶴見大学)
小林一茶『父の終焉日記』(1801)にみる父親への看病 平尾真智子
- ③日本医史学会関西支部秋季大会(11月15日 大阪府大阪市住吉区・大阪市立大学)
伊藤玄恕『病家要論』(1695)にみる病家心得の内容 平尾真智子
- ④第42回日本歯科医史学会総会(10月3日 東京都文京区・ガーデンパレス)
医学史の歴史的記念物にみる意味性の一考察 西巻明彦
大岡越前守忠相と十三香具師 西巻明彦
歯科医学史の起源についての考察 西巻明彦
『種痘必順弁』の意義について 西巻明彦
東京女子歯科技工学校の開学願書について 樋口輝雄
19世紀半ばにロンドンで刊行された家庭医学書 John F. South の “Household Surgery” 樋口輝雄
- ⑤第29回日本看護歴史学会学術集会(8月22～23日 北海道札幌市中央区・札幌医科大学)
高木兼寛によるアメリカ国際会議での日本の慈善病院の報告
—シカゴ大博覧会(1893)後援による国際会議の会議録から— 平尾真智子・坪井良子
- ⑥仏教看護・ビハーラ学会第11回年次大会(8月28～30日 石川県金沢市・金沢真宗会館)
女性信者への書簡『察女に與ふ』(1737)にみる白隠禅師の看病観 平尾真智子
- ⑦日本医史学会6月例会(東京都文京区・順天堂大学)
コッホ碑の変遷についての考察 西巻明彦
- ⑧六史学会合同12月例会(東京都文京区・順天堂大学)
石濱義則一治安維持法違反で広島刑務所服役中に被爆したクリスチャン歯科医— 樋口輝雄
- ⑨日本医史学会3月例会(東京都文京区・順天堂大学)
池田流痘疹治療にみる唇舌図の考察 西巻明彦

2) 著作ならびに論文等

- ①北区内島見・近藤家文書について その四 近藤文泰と大森寿庵 (二),
新発田郷土誌 第43号. 広瀬 秀
- ②日本の看護教育開始時における指導書『ハンドブック・オブ・ナーシング』
—東京慈恵医院看護婦教育所の教育の実証から—, 日本看護歴史学会誌, 第28号.
平尾真智子・坪井良子
- ③江戸時代中期の談義本『医者談義』(1759)にみる病家への教訓,
医譚, 復刊102号(通巻119号). 平尾真智子

〒951-8580 新潟市中央区浜浦町1-8 日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館内
電話 025-267-1500 FAX 025-267-1134 日本医史学会新潟支部(樋口輝雄)

北陸医史学会 総会・例会報告

1. 会務報告

- (1) 新入会員6名: 小川恵子, 平田和美, 白井明子, 小笠原千絵, 三島 怜, 濱浪嘉登(学生)
他に学生2名(華岡, 達川) 入会見込
- (2) 物故会員: 寺畑喜朔先生
- (2) 会員数: 40名(平成27年7月4日現在)
- (3) 第36回例会開催: 平成26年7月6日(日) 金沢大学医学図書館十全記念スタジオ
- (4) 北陸医史第37号発行: 平成27年2月16日(月)
- (5) 幹事会・連絡会: 平成27年2月28日(土) ホテル金沢北の庄

2. 会計報告

- (1) 平成26年度決算

【平成26年度決算】

(平成26年3月27日~平成27年3月26日)

収入(円)		備考	支出(円)		備考
会費	195,000	5,000 × 39	北陸医史37号	127,260	送料等含む
別刷代	24,000	3,000 × 8	36号発行費	3,324	追加分
利息	104		例会開催費	22,905	
			振替用紙印刷代	1,296	
			寺畑先生ご葬儀	26,082	
前年度繰越金	584,019		次期繰越金	622,256	
合計	803,123		合計	803,123	

(2) 平成27年度予算

【平成27年度予算】

収入（円）		備考	支出（円）		備考
会費	125,000	5,000 × 25	北陸医史印刷費	200,000	38号
別刷代	30,000		別刷印刷費	30,000	
			例会開催費	23,000	謝金等
			事務費	10,000	通信費等
前年度繰越金	622,256		次期繰越金	514,256	
合計	777,256		合計	777,256	

3. 事業計画（案）

- (1) 第37回例会開催：平成27年7月5日（日）世話人：古林秀則先生
福井市地域交流プラザ AOSSA 601 研修室（福井市手寄アオッサビル6階）
- (2) 北陸医史第38号発行：寺畑喜朔先生追悼号発行

日本医史学会神奈川地方会

平成27年度・第45回日本医史学会神奈川地方会秋季例会と日本医史学会9月例会 合同例会

日 時：平成27年9月12日（土） 14：15～17：00

会 場：鶴見大学2号館2階3-4講堂

出席者：約100名

- 1) 総会：荒井保男会長挨拶
：関根透幹事の現況報告
- 2) 一般講演
平尾真智子「小林一茶『父の終焉日記』（1801）にみる父親への看病内容」
- 3) 特別講演
酒井シヅ先生「医学史を学んでのよろこびについて」

なお、「秋季例会」の打合せの幹事会は平成27年7月10日、鶴見駅前の「寿楽」にて

平成27年度・第46回日本医史学会神奈川地方会春季例会

日 時：平成28年3月26日（土） 13：15～17：00

会 場：鶴見大学・大学会館2階204研修室

出席者：約20名

- 1) 総会：荒井保男会長挨拶
坂本玄子幹事の会計報告
- 2) 一般演題
 - 1 柳澤波香「英国における開業医の系譜（上）」
 - 2 春日広美「東京保健女子学院と公衆衛生看護」
- 3) 特別講演
関根 透「医学部・歯学部における医療倫理の歴史教育」

なお、「春季例会」の打合せ幹事会は平成28年2月5日、鶴見駅前の「寿楽」にて

東海支部 報告

1. 下記講演会の後援活動を行った。

『伊藤圭介日記』(第21集)出版記念会 一洋学史学会11月例会共催—

平成27年11月29日(日)午後1時~4時

(於名古屋市東山植物園植物会館研修室)

【記念講演】

シーボルト・伊藤圭介「日本植物目録」とその標本について(二)	加藤僖重氏
「日本植物目録」と『泰西本草名疏』	遠藤正治氏
伊藤圭介の「救荒植物集説」	杉村啓治氏
浅井平一郎著『丹羽修治先生伝』の紹介	河村典久氏
田中芳男と牧野富太郎の交流—田中が牧野に宛てた書簡を中心に	田中純子氏
澤田駒次郎—小石川植物園時代とその後—	邑田裕子氏
伊藤篤太郎著「文学と植物」—改訂復刻と注釈—	岩津都希雄氏

追記：平成28年2月24日に日本医史学会理事、伊藤圭介文書研究会事務局長を務められた遠藤正治先生が逝去されました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

(山内一信・高橋 昭)

関西支部 活動報告

▽日本医史学会関西支部2015年秋季大会(27年度春季は開催なし)

平成27年11月15日(日)於・大阪市立大学医学部学舎 4階中講義室 共催：京都医学史研究会
〈一般演題〉

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 「ベルツの日記」の登場人物 | 山上勝久(大阪市立大学) |
| 2. 四川成都老官山の漆経穴人形再考 | 猪飼祥夫(北里大学) |
| 3. 新出「緒方郁蔵肖像」について | 古西義麿(除痘館記念資料室) |
| 4. 原爆乙女と谷本清牧師 | 飯塚修三(いづか眼科) |
| 5. 大村達斎の墓碑名 | 八木聖弥(京都府立医大) |
| 6. タブーと治療 | 井上綾瀬(龍谷大学) |
| 7. 京都帝国大学医科大学初代学長坪井次郎—ドイツ留学当時の事績 | 榊原正義(藤田保健衛生大学) |
| 8. ロイヤル・ロンドン・ホスピタルにおける病院医師の学統と志 | 柳澤波香(東京都) |
| 9. 河口信任(1736~1811)による刑死体解剖について | W・ミヒエル(九州大学) |
| 10. 本居宣長『折肱録』に見る在京医学修行の一側面 | 吉川澄美(東京都) |
| 11. 曲直瀬道三(1507~94)の出生に関する事項について | 葉山美知子(京都医学史研究会) |
| 12. 明治期の新聞に見る浅田宗伯とその塾生たち | 松岡尚則(研医学会) |
| 13. 18世紀の眼科学の考察 | 園田真也(枕崎市) |
| 14. 「彌性園方函」に関する研究(第一報) | 三鬼丈知(大谷大学) |

15. 「親試実験」再考 小曾戸明子(おそど未病研究室)
16. 伊藤玄恕『病家要論』(1695)にみる病家心得の内容 平尾真智子(順天堂大学)
17. 英国輸血サービスの発展について 香戸美智子(大阪府)
18. 治療の日選びから見る『医心方』の鍼灸治療 島山奈緒子(京都市)
- 《紙上発表》
1. スウェーデンの特別支援教育における医療的支援 小野尚香(畿央大学)
2. 絵巻物に見る口腔の事柄 西巻明彦(日本歯科大学)
3. いわゆる『儒医』についての考察Ⅴ—儒墓 田中祐尾(大阪市立大学)
- 《特別講演》
- 幕末と明治初期の関西医学の隆盛と長崎 演者 長崎大学医学部名誉教授 相川忠臣

▽支部機関誌『醫譚』101号 平成27年7月31日発行

支部機関誌『醫譚』102号 平成27年12月20日発行

上述機関誌の掲載目次は関西支部(下記)をお開き下さい。

〒581-0003 大阪府八尾市本町5-1-7 田中医院内

日本医史学会関西支部事務局(田中祐尾)

☎: 072-922-2028 FAX: 072-993-1237 HP: <http://mhkansai.umin.ne.jp/>

京都医学史研究会 活動報告

1. 行事

2015年3月8日

献花 山脇東洋 観臓記念碑 (於) 盟親会館

献花 山脇東洋 墓および解剖供養碑 (於) 誓願寺

2. 学会発表および参加

① 2015年4月25日～4月26日 第116回日本医史学会 学術大会 (於) 大阪・日本綿業倶楽部
〈一般演題〉公家・山科言経の勅勘時代は医師であった—『言経卿記』から読みとく—
葉山美知子(京医研)

② 2015年11月15日 日本医史学会関西支部総会・学術大会(共催/京都医学史研究会) (於) 大阪市立大学
〈一般演題〉曲直瀬道三の出生に関する事項について 葉山美知子(京医研)

③ 2016年1月23日 日本医史学会関東大会 (於) 順天堂大学 参加

講演会の開催

① 2015年10月12日 医の先哲慰霊祭における講演 (於) 医聖堂(京都今熊野観音寺内)
日本医史学会理事長 小曾戸洋先生「日本の名医たち」

② 2015年10月15日 京都府医師会生涯学習学術講演会 (於) 京都府医師会館
講演 京都大学医学研究科教授 小泉昭夫先生「現代医学史から見たインターン闘争」

③ 2016年3月17日 京都府医師会生涯学習 学術講演会 (於) 京都府医師会館
講演 ミヒェル・ヴォルフガング九大名誉教授「京都蘭学の草分け・吉雄元吉について」

展示会開催

① 2015年11月1日～11月3日

第23回医療文化史サロン展「医心方と京都の医学史2015」開催(於)護王神社内会館

冊子出版

① 『京一醫と鑿一史跡探訪』冊子出版

第29回日本医学会総会2015関西が京都で開催されたため共同事業として出版した。

広島医史学研究会 活動報告**広島医史学研究会・岡山医学史研究会 合同学術集会**

日時 平成28年1月23日(土)14時～

場所 広島大学医学部基礎講義棟 第一講義室

1. 広島医史学研究会総会**2. 広島医史学研究会・岡山医学史研究会合同発表会****3. 開式の辞** 大会長 広島大学 秀 道広

座 長 広島大学 木原康樹

演題1. 元岡山県知事・三木行治医師の公衆衛生(五)

—三木行治と蜂谷道彦の関係—

倉敷仁風ホスピタル 高木寛治

演題2. 麻酔とは(二)

門前歯科医院 門前弘美

演題3. 呉 秀三先生と膽之(せんし),そして海自第一術科学校

江田島市 森原和之

演題4. 内視鏡の歴史 ～胃カメラを中心に～

かりや内科 刈屋憲次

演題5. 『医自然臣僕也』思想について Natura Sanat Medicus Curat 広島大学名誉教授 津下健哉

コーヒーブレイク(10分間)

4. 特別講演会

座 長 広島大学 秀 道広

(1) 大久野島毒ガス傷害研究会の歩み 広島大学副学長, 大学院教授(第二内科) 河野修興

(2) 江戸期医療の変革者としての吉益東洞 —その思想と医説—

漢方京口門診療所長, 吉益東洞顕彰会会長 山崎正寿

5. 閉式の辞 大会長 広島大学 秀 道広**福岡地方会 活動報告**

平成27年度福岡地方会は、下記の通り2度の研究発表会を開催いたしました。次年度も例年通りほぼ同じ日程で2度の開催の予定です。

第27回 福岡地方会

開催日時:平成27年8月8日(土)14時30分から

会 場:福岡ガーデンパレス(福岡市中央区天神4丁目8-15)

参加者数:15名(発表者を含む)

【発表者・演題】

お名前 (五十音・一部変更)	演 題
赤司 友徳 先生	九州大学医学歴史館の建設とその意義について
隈部 敏明 先生	秋月藩医戸原歴庵日記の一考察 その3
小林 晶 先生	医師村上英俊が編集した本邦初の仏日辞典「佛語明要」について
権藤 寿昭 先生	曲直瀬玄朔の診療日記より視える、織田家に流れる心の病
佐藤 裕 先生	明治18年福岡県立病院で行われた帝王切開の真相
柴田 浩一 先生	久保猪之吉 医学と文学の間 ^{はざま} で
富田 英壽 先生	天野甚左衛門顕彰碑建立報告
原 寛 先生	超高齢社会と生活習慣病（養生訓に学ぶ）
木村専太郎 先生	医聖永田徳本について
丸山マサ美 先生	九州大学医学部史料研究 九州大学 P&P 平成25年度・26年度 成果報告

第28回 福岡地方会

開催日時：平成28年2月20日（土）14時30分から

会 場：福岡ガーデンパレス（福岡市中央区天神4丁目8-15）

参加者数：22名（発表者を含む）

【発表者・演題】

お名前 (五十音・一部変更)	演 題
井口 潔 先生	戦時中の医学生気質の回顧
今永 一成 先生	心臓電気生理学の歩み
ヴォルフガング・ ミヒエル 先生	種痘における定量的評価について
隈部 敏明 先生	秋月藩医戸原歴庵日記の一考察 その4
権藤 寿昭 先生	和田東郭の医論（江戸時代中期）
佐藤 裕 先生	海馬（Hippocampus）をめぐって
柴田 浩一 先生	久保猪之吉 医学と文学の間 ^{はざま} で その2
原 寛 先生	（養生訓）貝原一守氏について
木村専太郎 先生	江戸初期と中期の大和本草学 稲生若水・貝原益軒・小野蘭山を中心に
丸山マサ美 先生	九州大学史料研究 九州大学“徽章”
山根 泰志 様	狩野亨吉と九州大学

雑報

寄贈本リスト

【単行本】

- 武田科学振興財団 杏雨書屋編『曲直瀬道三と近世日本医療社会』「武田科学振興財団」2015
 入江武男『桑田衡平の物語』2015
 島田保久『蝦夷地醫家人名字彙』2015
 中島医家資料館・中島文書研究会 編著『備前岡山の在村医 中島家の歴史』「思文閣」2015
 東洋学園大学 東洋学園史料室『東洋女子歯科厚生学校』2015
 東洋学園大学 東洋学園史料室『昭和三年校舎と八つの寄宿舎』2015
 新村拓『近代日本の医療と患者』「法政大学出版局」2016
 立川昭二『生死のあわい』「光原社」2016
 順天堂史料研究会編『順天堂の系譜—佐藤家関連書簡集—』2016
 津田昌利『神奈川県精神科医療の歴史』2016
 夏目琢史・竹田進吾編『人物史 阿部猛—享受者たちの足跡』「日本史史料研究会」2016
 適塾記念会緒方洪庵全集編集委員会『緒方洪庵全集第四巻 日記 書状(その一)』2016
 ミヒェル・ヴォルフガング, 吉田洋一, 大島明秀 共編『中津市歴史民俗資料館 分館 医家史料館叢書 X
 V学芸の諸相 I』「中津市教育委員会」2016
 東洋学園大学 東洋学園史料室『創立期の東洋女子歯科医専 I』2016
 福島県只見町教育委員会『医家原田家書籍目録』2016
 日本薬史学会編『薬学史事典』「薬事日報社」2016
 川端美希『近代日本の公衆浴場運動』「法政大学出版局」2016
 加藤四郎編著『小児を救った種痘学入門 ジェンナーの贈り物』「創元社」2016
 吉元昭治『内経・神農本草経 分析』「医聖社」2016
 第26回漢方治療研究会『第26回漢方治療研究会 講演要旨集』「東亜医学協会」2016
 香月牛山原著, 中村節子翻刻・訳注『小児必用養育草』「農山漁村文化協会」2016
 堀田国元『ディスカバー岡見京』2016

【別刷】

- 『山形再発見—アルブレヒト・フォン・ローレツ—』小形利彦「山形新聞」
 『華岡家門人録の特徴について—出雲出身の門人37人の分析を通して—』梶谷光弘「日本医史学雑誌」
 61(4)
 『出雲地方へ伝播・浸透した華岡流医術について』梶谷光弘「洋学」(23)
 『緒方郁蔵の肖像写真と肖像画—新出「緒方郁蔵肖像写真」と大戸家の肖像画』古西義磨「医譚」(103)
 『発病, 罹患, 発症の明快な用法を目指す試案』福田勝洋, 三宅浩次「日本医師会雑誌」145(4)

【雑誌】

- 『あいみっく』36(4), 37(1-3) 国際医学情報センター
 『BIBLIA』(144-145) 天理図書館
 『Chinese Journal of Medical History』45(3-6), 46(1-2) Chinese Medical Association
 『Chinese Medical Journal』128(17-24), 129(1-16) Chinese Medical Association

- 『だより（練馬区医師会）』（572-583）練馬区医師会
『福井県医師会だより』（653-664）福井県医師会
『北陸医史』（38）北陸医史学同好会
『醫譚』（通刊119）（復刊102）日本医史学会関西支部
『医道の日本』74（11-12），75（1-10）医道の日本社
『いわちどり（小笠医師会誌）』（43）小笠医師会
『除痘館記念資料室だより』（8）（財）洪庵記念会・除痘館記念資料室
『漢方の臨床』62（11-12），63（1-9）東亜医学協会
『啓迪』（8）京都医学史研究会
『神奈川県医学会雑誌』43（1）神奈川県医師会
『研究紀要』（10）佐賀大学地域学歴史文化研究センター
『明治薬科大学研究紀要』（45）明治薬科大学
『名古屋大学大学文書資料室紀要』（24）名古屋大学大学文書資料室
『練馬医学会誌』22 練馬区医師会
『日本医師会雑誌』144（8-12），145（1-7）日本医師会
『日本獣医史学雑誌』（52-53）日本獣医史学会
『日本歯科医史学会誌』31（3-4）日本歯科医史学会
『鳴滝紀要』（26）シーボルト記念館
『労働科学』90（4）労働科学研究所
『労働の科学』70（10-12），71（1-8）労働科学研究所
『STETHOSCOPE』（219-222）日本医学切手の会会報
『斯文』（128）斯文会
『適塾』（48）適塾記念会
『洋学史研究』（33）洋学史研究会